

研修参加報告書

平成30年2月2日

会 派 名 リフォームの会
会派代表者 山 登志浩

(参加者：山 登志浩 中野 裕二)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	平成30年1月30日（火曜日）
研修時間	13時30分～16時30分
研修場所	ウィルあいち ウィルホール（名古屋市東区）
研修内容	子どもが輝く未来に向けたシンポジウム～「子どもの貧困」について 何ができるのか、一緒に考えてみませんか～

研修参加報告書

①

年月日	平成30年1月30日（火曜日）
研修時間	13時30分～16時30分
研修場所	ウィルあいち ウィルホール（名古屋市東区）
研修内容	子どもが輝く未来に向けたシンポジウム～「子どもの貧困」について 何ができるのか、一緒に考えてみませんか～ （講師：後藤 澄江 氏、村井 琢哉氏ほか4人）
■目的 子どもの貧困問題に関する愛知県当局の動向を把握するとともに、江南市には何が求められているかを考えるため。また、子ども食堂や学習支援などに取り組むパネリストの話聴いて、現場の実態をつかむため。	
■内容 県が2016年12月に実施した「愛知子ども調査」によると、県の子どもの相対的貧困率は5.9%で、全国平均（2015年 13.9%）よりかなり低い。ただし、実数でいうと、約7万人強の子どもが貧困線以下に置かれている。ひとり親の子どもに限れば52.9%と、全国平均とほぼ同水準で大変深刻だ。 気がかりなのは、子どもの進路について、保護者と子どもの間で希望格差があることだ。すわなち、ひとり親など所得が低い世帯の子どもは、早いうちから将来をあきらめてしまう傾向が見て取れる。 知事への「提言」（2017年9月）が、貧困対策の推進計画に適切に反映され、着実に推進されることを願っている。 子どもへの支援活動は、特別なことをしているわけではなく、本来当たり前とされることの埋め直しである。貧困問題に関心を寄せる大人が、子どもへの言葉がけなどで、子どもの周囲の環境を少しでも変えていくべきだ。 スクールソーシャルワーカー（SSW）は、子どもの生活上の相談に乗り、周囲の環境に働きかける仕事である。子どもに自立を促しつつ、子どもをどう守るのかを考えている。2014年度から、6人のSSWで県立高校150校を担当している。 学習支援について、名古屋市では消防署の会議室で実施している事例がある。また、高浜市は小学生から高校生までを対象に「ステップ」という事業を実施している。さらに、貧困対策会議を設置し、メンバーに高校教員を入れている。 子ども食堂の実施にあたっては、「貧困対策」を前面にアピールしたくはなかった。子ども食堂は、子どもの居場所作りや高齢者のサロンなどの場にもなり得る。	

■所感

貧困が固定化し次世代に連鎖することは、子どもや家族はもとより、社会全体にとって不幸なことであり、社会的・経済的損失が大きい。よって、江南市も「愛知子ども調査」や知事への「提言」を精査し、子育て支援施策や独自の施策作りに活かすべきである。とりわけ、学習支援（県内の半数以上の自治体の実施中）などを早急に事業化していかねばならない。

また、今年度から江南市もSSWを配置しているが、その活動状況などをしっかりと把握していきたい。

貧困対策でカギとなるのは、子どもを見守り、愛情をかけられる大人が周囲にどれだけいるかだ。そのために、多くの市民に貧困問題を身近なこととして考えてもらえるよう、議員の立場で「見える化」に努力していきたい。